

子育ての社会化をとおした社会的養護児童と 地域の「ひと・もの・こと」との関係

笹倉千佳弘（幼児教育学科）、井上寿美（関西福祉大学）

The Relationships between the Children in Social Care and the "People, Things and Affairs" in the Region through Socializing Child-rearing

Chikahiro SASAKURA (Department of Preschool Education)

Hisami INOUE (Kansai University of Social Welfare)

本報告の目的は、児童養護施設で育つ社会的養護児童の子育ての社会化をとおして、社会的養護児童と、子育ての社会化がおこなわれた地域の「ひと・もの・こと」との間にかなる関係が築かれるのかを明らかにすることである。ホームステイ事業に参加した子どもを事例として取りあげ、検討した結果、児童養護施設で育つ社会的養護児童の子育ての社会化をとおして、子どもと子育ての社会化がおこなわれた地域の「ひと・もの・こと」との関係として、次の2点が明らかになった。1つは、「こと」との関係では、特別な「こと」を何もしなかったがゆえに、子どもたちは特別な「こと」を創りだしたということである。2つは、「ひと」との関係では、複数の「ひと」による承認をとおして、自分の出来なさを「ひと」に開示できる程度にまで自己肯定感が育まれたということである。

キーワード：ホームステイ、児童養護施設、生きられた経験

I はじめに

本調査の目的は、児童養護施設で育つ社会的養護児童の子育ての社会化をとおして、社会的養護児童と、子育ての社会化がおこなわれた地域の「ひと・もの・こと」との間にかなる関係が築かれるのかを明らかにすることである。

先行研究によれば、子育ての社会化をめぐるのは、育てる主体である親の側から議論されたものが多く、育つ主体である子どもの側から議論されたものは、管見の知る限り、森田¹⁾と網野²⁾の論稿のみである^{注1)}。森田は、子どもが仲間のいる社会化された場所を獲得することに子育ての社会化の意義があると述べている。また網野は、子どもが親以外の社会的親による多様なモデリングを獲得することに子育ての社会化の意義があると述べている。いずれの議論も子どもの側から論じられているが、親による養育に期待することが容易である子どもを対象としており、親による養育に期待することが困難な社会的養護児童